

**古墳壁画の保存活用に関する検討会  
装飾古墳ワーキンググループ（第2回）議事要旨**

1. 日 時 平成24年11月14日（水）15：00～17：00
2. 場 所 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター 講座室
3. 出席者 （委員）  
和田座長、三浦副座長、成瀬委員、矢島委員  
（専門委員）  
今津委員、岡田委員、小椋委員、高妻委員、坂口委員、柳沢委員  
（有識者）  
永井古墳壁画の保存活用に関する検討会座長  
（ひたちなか市教育委員会）  
木下教育長、大内次長、岩崎総務課長、斉藤総務課文化振興室長  
（ひたちなか市史跡保存対策委員会）  
犬塚委員、石崎委員、上條委員、川崎委員、木川委員  
（事務局）  
文化庁：江崎古墳壁画室長、矢野記念物課長、建石古墳壁面对策調査官 ほか  
関係官  
独立行政法人国立文化財機構：  
東京文化財研究所：石崎東京文化財研究所副所長 ほか関係者  
奈良文化財研究所：田中研究支援推進部連携推進課長、平澤文化遺産部遺跡  
整備研究室長 ほか関係者

4. 概 要

（1）開会

（2）委員及び出席者紹介

（3）議事

①虎塚古墳の保存管理の体制について

斉藤総務課文化振興室長から資料2に基づき虎塚古墳の保存管理の体制について報告が行われた。

②虎塚古墳の保存管理の現況について

矢島委員から資料3に基づき虎塚古墳の保存管理の現況について報告が行われた後、以下のとおり意見交換等が行われた。

今津委員：石室内への虫の侵入等の状態について教えてほしい。

矢島委員：公開施設が完成した後、10年ほど経過した頃から虫の侵入が確認され、その時以降、大きな変化はない。

和田座長：壁画の劣化の状態について教えてほしい。

矢島委員：石室の下の部分は、白土も顔料も落ちており、長い年月の間に劣化が確実に進んでいる。

和田座長：石材の含水率の調査状況について教えてほしい。

矢島委員：現在、壁面の含水率について何方かを測定しており、今後も調査を継続してみないと明らかにはならないが、顔料が移動していると思われる場所は、基本的に水の浮き出しの多いところに対応していると思われる。

坂口委員：含水率の調査を行う際には、中の水を調べる方法と表面の水を測定する方法があるが、どちらの方法を用いているのか。

矢島委員：赤外線を使用した水分測定器を用いて、表面の水を測定している。

- 坂口委員：いかに水の移動を抑えるかといった水の問題は、装飾古墳の保存を考える上で一番大事なことであると考えている。
- 三浦副座長：観察室での見学者の対応として、加湿及び冷却のために氷を使用したとのことであるが、壁画への影響はなかったのか。
- 矢島委員：観察室でのカビ発生はこれまでに何度かあるが、石室内のカビの発生や壁画に結露が生じたことはない。
- 岡田委員：石室内でのカビの発生を抑制、または制御する方法は何か。
- 矢島委員：防カビ剤を使用しているほか、石室内に出入りする人を極限まで減らしていること、石室内での作業は30分を超えない短時間で済ませるようにしていることが、カビ発生を抑制している1つの要因となっていると考えられる。
- 木川委員：石室内に出入りする人を極限まで減らしていることのほか、虎塚古墳は開封してから壁画を積極的に触れたり、壁画に修理材料を用いたことが一度もないということも、カビ発生を抑制している要因の1つとして考えられる。
- 小椋委員：石室内に入室する際の観察室の扉の開放状況と、結露の流下した跡が確認されたことがあるのか教えてほしい。
- 矢島委員：観察室と石室内の温度差が生じれば当然に結露は生じるが、公開前は公開の障害にならないよう拭き取っている。  
また、環境の変化や外部からの様々な侵入のリスクをできる限り軽減するため、観察室の扉は、基本的に石室内に出入りする時のみ開けており、石室内に入室後は扉を閉めて対応している。

③高松塚古墳壁画劣化原因調査報告書からの知見について

古墳壁画の保存活用に関する検討会の永井座長から資料4に基づき高松塚古墳壁画劣化原因調査報告書からの知見について説明が行われた。

④今後のワーキンググループの進め方について

事務局から資料5に基づき今後のワーキングの進め方について説明を行った。

(4) その他

次回のワーキンググループは、平成25年2月20日に開催することが確認された。

(5) 閉会

以 上